

小澤 亘

日・韓・加に注目してボランティア文化の比較研究を進めてきました。また、京都では、モアネット（外国人高齢者・障がい者支援組織）に参加しています。他大学の先生方と3カ年計画でアクションリサーチを実施中です。また、DAISYというツールを使って、外国人を支援するという新しい分野を開拓中です。趣味は、卓球、ガーデニング、そして、料理（しばしば、家族のために夕食を作っています）。

1. 専門演習の目標

フィールド活動を通じて、学問の扉をひらく。プロジェクト活動を通じて、一人では不可能なことが可能となることを体験する。そのためのスキルや態度・方法を実践的に身につける。すなわち、「ミッションを自覚する」「リサーチの能力をつける」「ネットワーク力を身につける」「そして、社会に発信していく」という能力です。現実社会に対して、アクションしていくことにより、社会で真に通用するキャリア教育を目指しています。

2. 専門演習で扱う課題と内容

以下の2つのプロジェクトを継続していく。

- 1) DAISY を利用した在日外国人児童に向けた支援研究（湖南省教育委員会と連携し、小学校あるいは初期日本語教室「さくら教室」に入っています。）
DAISY については、各自調べてみてください。
- 2) 京都における外国人観光問題へのアプローチ。留学生と日本人学生が協働して、京都の魅力を発見し発信していく（このプロジェクトは、「立命館大学110周年記念学生企画」に採択されています）。
詳しくは、大学ホームページのヘッドラインニュース2010年4月7日記事を参照ください。京都新聞2010年4月10日朝刊にも、掲載されています。

3. 授業の進め方・内容

3回生では、上記2つのプロジェクトに参加してもらい、先輩たちが築いた基盤を足がかりに、さらなるステップアップを目指していきます。前期：事前学習、先輩との交流、企画書の作成、夏休み・後期：活動実践、報告書の作成、そして、外部への報告という一連の流れのなかで、力を磨いていきます。4回生での卒論テーマは、自由。グループで研究を継続しても、個人で新たなテーマを追っても良い。大学時代に、一番、燃えることがで

きた「自分ならではのテーマ」を論文化する（つまり、文字媒体に残す）ことを目指す。一生の宝（落ち込んだときに手に取ると青春の力が湧いてくるような思い出の源泉）になるからです。

4. 必要とする知識

フィールド調査に関する基礎知識（入門書を読んで欲しい！）ニューツーリズム、在日外国人などをキーワードとして、情報を集めてみて欲しい。しかし、一番大切なのは、ハートです。熱意こそ、あらゆる困難を越えていく最良の起爆剤ですから・・・。

5. 関連する分野・科目・知識

多文化共生論、エスニシティ論、多文化コミュニケーション論を履修しておくことが望ましい（国際社会入門履修者も歓迎する）。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

「多文化」「共生」「在日外国人」などをキーワードとして、検索し自ら調べて欲しい。

プロジェクト活動では、もちろん、文献は参考にするが、テキストには書かれていない課題や問題に直面することになる。そのとき、皆さんの創造力が鍛えられる。

7. 独自に付加する選考方法

希望者は、メールでコンタクトして、会いに来てください。歓迎します。

8. 受講生に望むこと

「ゼミ」においてこそ、大学生は大学生になる。「ゼミ」を大切にする人に集まってもらいたい。「ゼミ」での生活で、一生涯の友人を作りたい。